

1. 桐蔭横浜大学大学院スポーツ科学研究科の概要

(1) 名 称 桐蔭横浜大学大学院 スポーツ科学研究科

(2) 位 置 横浜市青葉区鉄町 1614 番地 桐蔭横浜大学内

(3) 大学院の目的

本研究科は、体育・スポーツの現代的諸問題の解決・実現に指導的役割を果たす人材を「高度専門的職業人」と定義し、スポーツ科学の専門知識をさらに充実・発展させた各職場で要求されるより高い専門的知識や技能を修得し、その成果を的確かつ柔軟に問題解決できる能力を有する高度専門的職業人を育成することを目的としている。

(4) 課 程 修 士 課 程

(5) 修士課程の概要

①趣 旨

スポーツ科学の専門知識をさらに充実・発展させた各職場で要求されるより高い専門的知識や技能を修得し、その成果を的確かつ柔軟に問題解決できる能力を有する高度専門的職業人を育成する。

②標準修業年限 標準修業年限は2年とする。

③入学定員 スポーツ科学専攻 10名

④専攻内容 修士課程専攻案内参照

⑤修了要件

修士課程の修了要件は、修士課程に2年以上在学し、専攻科目について必修を含む30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

⑥学 位

修士課程を修了した者には、「修士（スポーツ科学）」の学位が授与される。

(6) 奨学金制度

①日本学生支援機構

日本学生支援機構奨学金の貸与制度が適用される。

②そ の 他

神奈川県等地方自治体、財団及び会社等による奨学金がある。

2. 専攻案内

スポーツ科学専攻 ー修士課程ー

本研究科では、スポーツ科学1専攻とし、スポーツ科学に関する高度に専門的な研究・教育を進めるためにスポーツ健康科学領域、スポーツ文化科学領域の2領域による教育・研究を展開します。

①スポーツ健康科学領域

健康を維持するための身体的メカニズム及び医・科学的知識、運動療法、スポーツ栄養、健康・スポーツ工学等に対する専門知識を深めるとともに、対象に合致した適切な運動プログラムやトレーニング機器の開発・指導等に関わる能力の養成を目指します。さらに、生涯スポーツに関する運動習慣の獲得方法等を研究・実践できる能力の養成を目指します。

②スポーツ文化科学領域

多様な社会スポーツ環境の充実・振興のための諸政策・方策、社会スポーツの管理運営と経営、スポーツマネジメント論、メディア論など、人文科学・社会科学的側面から多角的に研究します。また、現代社会の抱える教育問題に関心があり、スポーツでその問題解決することを目指す教員や指導者となることを強く希求する人材育成を目指します。

スポーツ科学研究科研究指導教員の研究内容と講義科目

担 当 教 員	キ ー ワ ー ド	担 当 講 義 科 目	
(スポーツ健康科学領域) 教 授 星 秋 夫	環境衛生学、生気象学 健康・スポーツ科学	スポーツ科学特論 特別研究演習Ⅱ スポーツ健康科学演習Ⅳ	特別研究演習Ⅰ 健康科学特論 (研究指導)
教 授 桜井 智野風	運動生理学 スポーツ科学 トレーニング科学	スポーツ科学特論 特別研究演習Ⅱ トレーニング・運動処方学特論 (研究指導)	特別研究演習Ⅰ 運動生理学・生化学特論 スポーツ健康科学演習Ⅰ
教 授 河崎 賢三	スポーツ医学、再生医療 野球医学	特別研究演習Ⅰ スポーツ医学特論 (研究指導)	特別研究演習Ⅱ スポーツ健康科学演習Ⅲ
准教授 片山 富美代	健康心理学、基礎看護学	特別研究演習Ⅰ ヘルスケア特論	特別研究演習Ⅱ (研究指導)
(スポーツ文化科学領域) 教 授 井筒 次郎	スポーツ教育学 保健体育科教育学 安全教育学	特別研究演習Ⅰ 保健科教育学特論 (研究指導)	特別研究演習Ⅱ 学校スポーツ演習Ⅱ
教 授 松本 格之祐	体育科教育学	スポーツ科学特論 特別研究演習Ⅱ 学校スポーツ演習Ⅰ	特別研究演習Ⅰ 体育科教育学特論 (研究指導補助)
准教授 渋谷 崇行	心理的ストレス ライフスキル 対人関係	スポーツ科学特論 特別研究演習Ⅱ スポーツ文化科学演習Ⅰ	特別研究演習Ⅰ スポーツ心理学特論 (研究指導)
准教授 田中 暢子	スポーツ政策学 健康政策学 スポーツ社会学、障害学	特別研究演習Ⅰ スポーツ政策学特論 (研究指導)	特別研究演習Ⅱ スポーツ文化科学演習Ⅳ